

<研究報告>

音楽科身体表現活動のスタンダードに関する考察

—スペインの初等音楽科指導計画書の分析を通して—

桐原 礼 信州大学学術研究院教育学系

キーワード：初等音楽科，身体表現，スタンダード，コンピテンシー，スペイン

1. 研究の背景と目的

近年，世界各地で大きな教育改革が行われている中，スペインにおいても様々な教育施策が打ち出されている。スペインでは「教育基本法」（通称 LOE 法，2006 年）にてシティズンシップ教育が必修化されたり，同時に EU のキー・コンピテンシーの概念¹が導入されたりして，各教科などにおける授業デザインや評価のあり方に大きな変革がもたらされた。さらに，現行の「教育の質改善法」（通称 LOMCE 法，2013 年）下のカリキュラムにおいて，新たに「学びのスタンダード（Estándares de aprendizaje evaluables）」（以下，スタンダード）が設けられ，学年ごとに到達目標に達しているかどうかを判断することとなった²。このカリキュラムは，2014 年 9 月より，第 1 学年・第 3 学年・第 5 学年にて施行され，2015 年 9 月よりすべての学年にて施行されている（LOMCE, 2013, p.97920）。またこの間，音楽科教育においては，新たな領域が設定されるという大きな変化がもたらされた。スペインの初等音楽科の内容は，LOE 法下のカリキュラムでは「ブロック 1. 聴取」「ブロック 2. 演奏」の 2 つの領域で構成されていたが，LOMCE 法下のカリキュラムより「ブロック 3. 動きとダンス」が新設された（Real Decreto, 2014, pp.19404-19405）。こうした教育改革の流れの中で，

¹ LOE 法にて 8 つのコンピテンシーが設定され，LOMCE 法下のカリキュラムで 7 つに整理された。LOMCE 法下における基礎コンピテンシーは，①言語コミュニケーション能力（Competencia en comunicación lingüística），②数学の能力・科学とテクノロジーの能力（Competencia matemática y competencias básicas en ciencia y tecnología），③デジタル能力（Competencia digital），④学び方を学ぶ（Aprender a aprender），⑤社会性・市民性のコンピテンシー（Competencias sociales y cívicas），⑥イニシアチブ感覚と企業家精神（Sentido de iniciativa y espíritu emprendedor），⑦文化的な認識・文化的表現（Conciencia y expresiones culturales）の 7 つである（Real Decreto 2014, p.19352）。これらの元となっている EU・キー・コンピテンシー参照枠組みについては，例えば C.ファデル他（2016, p.61）に掲載されており，21 世紀型スキルなど各国の教育改革の動向については，例えば松尾（2014）にて解説されている。

² スペインの初等教育における留年制度は「教育制度の一般整備に関する組織法」（通称 LOGSE 法，1990 年）で導入された。LOE 法（2006 年）では，初等段階で基礎的能力に到達したら次の中等段階に進級でき，いずれかの科目分野で目標を達成できなくても，補習などの支援を受けて次の段階に進むことができるとされた。また，基礎的能力に到達できなかった児童は，初等段階に 1 年留まることができるが，この措置は 6 年間で 1 回のみとされていた。LOMCE 法（2013 年）においては，学年に対応する能力を取得した上で次の学年に進級できるとして，学校段階でなく学年ごとに留年の判断をするよう変更され，能力が取得できなかった場合は初等教育の 6 年間で 1 回のみ留年できるとされている。（WIP ジャパン株式会社，2014, p.39）このように，音楽科について進級判断が得られなかったとしても，他の教科で認められた際には進級が可能であり，落第科目は補習で補うことができる。

音楽科教員は新たな方針を組み入れながら、日々の授業実施に向けた対応に追われていることが想像できる。

筆者はこれまでの研究において、スペインの初等音楽科における新設の「ブロック 3. 動きとダンス」の授業デザインの方法について検討してきた。ここでは、活動内容とコンピテンシーを一体化させた指導計画を立てて授業を実施していることを確認し、この授業デザインによって、どのような身体表現活動がどのコンピテンシーに結びつくのか、より明確にすることが可能となることを考察した（桐原, 2020）。本研究においては、スペインの初等音楽科について、LOMCE 法下のカリキュラムにて新たに導入されたスタンダードの概要を把握するとともに、スタンダードに基づく音楽科身体表現活動の特徴について明らかにすることを目的とした。

2. 調査の概要

2.1 調査の対象

本研究においては、ムルシア州の初等カリキュラムおよび、公立小学校「音楽科指導計画書（Programación Docente, Música）」（以下、指導計画書）の 2016 年度版 6 学年分（Martínez 2016）を研究対象とした。これらの分析にあたり、指導計画書の提供者である研究協力者へのインタビューを適宜実施した。

筆者はこれまでもムルシア州を対象として研究を実施しているが、本研究において着目したムルシア州のカリキュラムの特徴は、以下の通りである。

- ① LOE 法（2006 年）下のカリキュラムにおいて初等音楽科は「必修科目」であったが、現行の LOMCE 法（2013 年）においては「選択科目」とされた。スペインは、自治州ごとにカリキュラムを制定・実施しているため、国レベルのカリキュラムと自治州のカリキュラムに大きな違いがある場合がある³。ムルシア州では、初等音楽科を「必修扱い」⁴として従来通りの時数を保っているため、音楽科授業の分析が可能である。
- ② LOMCE 法下の初等音楽科カリキュラムにおいて、新たに「ブロック 3. 動きとダンス」が位置づけられた。ムルシア州では、国レベルのカリキュラムにおけるこの方針や内容を踏襲しているため、分析の対象とすることが可能である。
- ③ LOMCE 法下の国レベルのカリキュラムにおいては、音楽科の内容である「ブロック 1. 聴取」「ブロック 2. 演奏」「ブロック 3. 動きとダンス」のそれぞれについて、全

³ スペインは、17 の自治州から構成されている。自治州における決定権として、教育課程の「全国共通最低基準」の規定（国が定めた全国共通で教えるべき基準）があり、国が定めた法およびカリキュラムに基づき、各自治州にて作成されたカリキュラムが実施される仕組みとなっている。

⁴ 初等音楽科は LOE 法（2006 年）までは必修科目、中等では学年によって必修および選択科目であったが、LOMCE 法（2013 年）下のカリキュラム改訂により、現在では初等および中等にて選択科目となった州があったり、国の方針に逆行して音楽授業時数を増やしたりした州もある。ムルシア州では、初等音楽科について必修扱いとしている（Decreto, 2014, p.33058）。第 1 学年～第 3 学年の「芸術科目」として「音楽」と「図工」が週に 1 時間ずつあり、第 4 学年～第 6 学年では「図工」の時数がなく「音楽」が週に 1 時間実施されている（Decreto, 2014, p.33551）。

音楽科身体表現活動のスタンダードに関する考察

学年統一のスタンダードを定めているが、ムルシア州のカリキュラムにおいては、各ブロックの学年ごとにスタンダードが設定されている。ムルシア州のカリキュラムにおいては、国レベルのカリキュラムよりも詳細にスタンダードが定められているため、指導計画書における各学年のスタンダードに基づく身体表現活動の分析をすることが可能である。

2.2 指導計画書の提供者について

指導計画書の提供者（1名）の選定理由は以下の通りである（インタビューによる）。

- ・ムルシア州公立小学校の音楽教員として、16年の教職経験をもつ。
- ・数年前より、初等音楽科教員採用試験準備のための専門学校にて教鞭をとり、「音楽科指導計画書」作成に関する指導経験がある。2016年度、ムルシア州の初等音楽科教員は20名程度の定員であったが、そのうちの10名を合格させた実績がある。（600名程度の応募があり、約30倍の難関試験であるという）
- ・現在の勤務校は比較的移民の少ない学校であるが、前任校は多様なルーツの移民の多い学校であり、多文化共生に向けた音楽指導の重要性を認識している。

2.3 調査の方法

本研究においては、スタンダードに基づく音楽科身体表現活動の特徴について明らかにすることを目的としている。このため、ムルシア州初等音楽科教員が作成する指導計画書の6学年分（2016年度版）を分析の対象とした。指導計画書の提供者である研究協力者には、2017年8月にスカイプにて1時間程度のインタビューを2回実施した。

指導計画書の分析においては、はじめに、指導計画書におけるスタンダードの概要について整理した。続いて、「ブロック3.動きとダンス」における、各学年のスタンダード項目に基づく身体表現活動の内容について検討した。

3. 結果と考察

3.1 指導計画書におけるスタンダードおよびコンピテンシーの概要

指導計画書は学年ごとに作成され、それぞれ25ページ程度で構成されている。ムルシア州教育庁によって指導計画書の目次が定められているが、内容における書式は教員に委ねられている。スタンダードにおいては、従来からの評価規準をより具体化した内容が記載されており、教員による項目の変更は認められていない。スタンダード項目における各コンピテンシーとの関連づけは、ムルシア州教育庁による情報を参考にしている教員が多いが、基本的には各教員に委ねられている。（以上、インタビューより）

指導計画書の内容について、第6学年を例に挙げる。図1は、第6学年のユニット1における「学びの関連性（Relación de las Unidades Didácticas）」を示す表の一部である。ムルシア州のカリキュラムにおける評価規準（Criterios）とスタンダード（Estándares）に基づき、各教員が活動内容（Conenidos）を考案している。この際、7つのコンピテンシーとの関連づ

けは各教員の判断で設定されている。例えば、図1における1.1.3のスタンダードについて、「CSC（社会性・市民性）」および「AA（学び方を学ぶ）」という2つのコンピテンシーが関連づけられている。

図2は、第6学年の各学期（Primera, Segunda, Tercera）の3学期におけるコンピテンシーの取り扱いに関する表の一部である。例えば、1学期（Primera）の学びユニット1として、バロック時代のアントニオ・ヴィヴァルディについて3時間扱いで授業を実施し、そこに関連づけるコンピテンシーは、「CSC（社会性・市民性）」「AA（学び方を学ぶ）」「CEC（文化的認識・文化的表現）」「CEIG（デジタル能力）」「SIEE（イニシャチブ感覚と企業家精神）」であることが示されている。

続いて、6学年分の全ユニットにおける各コンピテンシーの数を集計し、その割合について、グラフにまとめた（図3）。その結果、年間12ユニットの中で、7つのコンピテンシーすべてが設定されていることが分かる。その中で「CEC（文化的認識・文化的表現）」が23%と最も多く、続いて、「CSC（社会性・市民性）」（21%）と「AA（学び方を学ぶ）」（21%）が多く充てられている。

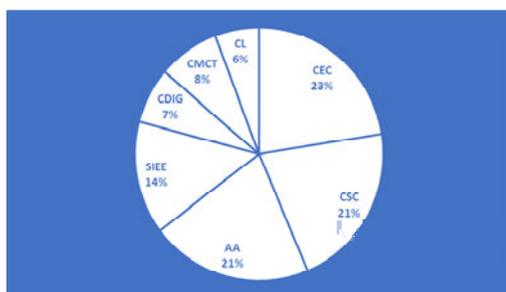
RELACION DE LAS UNIDADES DIDÁCTICAS:

UNIDAD DIDÁCTICA 1. Centro de interés: Música electrónica de los 80 l.		
Contenidos-	Criterios-	Estándares-
Actitud silenciosa en la audición de obras musicales.-	1.1. Utilizar la escucha musical para la indagación en las posibilidades del sonido de manera que sirvan como marco de referencia para creaciones propias.-	1.1.3 Mantiene una actitud atenta y silenciosa en la audición de obras musicales. (CSC, AA)-
Reconocimiento visual y auditivo de pequeñas frases melódicas interpretadas por el maestro con la flauta o el piano.-	2.1. Interpretar solo o en grupo, mediante la voz, su propio cuerpo o instrumentos, utilizando el lenguaje musical, composiciones sencillas que contengan procedimientos musicales de repetición, variación y contraste, asumiendo la responsabilidad en la interpretación en grupo y respetando, tanto las aportaciones de los demás como a la persona que asume la dirección.-	2.1.3 Reconoce pequeñas frases melódicas. (CEC)-
Uso de herramientas informáticas para crear piezas musicales, sonorización de imágenes y pequeñas representaciones dramáticas (soundation, incredibox, otras web y aplicaciones para tablet).-	2.2. Elaborar trabajos de investigación musical a través de la búsqueda de información bibliográfica. Explorar y utilizar las posibilidades sonoras y expresivas de diferentes instrumentos y dispositivos electrónicos.-	2.2.2 Utiliza los medios audiovisuales y recursos informáticos para crear piezas musicales y para la sonorización de imágenes y representaciones dramáticas. (CDIG, CEC, SIEE)-
Canción: "Just can't get enough".-		
Flauta: "Just can't get enough".-		
Pequeña instrumentación 1.-		
Coreografía 1 (Santa Cecilia).-		

図1 例) 第6学年ユニット1 (指導計画書第6学年, p.5)

EVALUACION	UNIDADES DIDÁCTICAS	HORAS	COMPETENCIAS
Primera	1. Barroco: A. Vivaldi	3	CSC, AA, CEC, CDIG, SIEE.
	2. Barroco: J. S. Bach	3	AA, CEC, CSC.
	3. Clasicismo: Haydn	3	CL, CEC, AA, SIEE.
	4. Clasicismo: Mozart	4	CSC, CEC, AA, SIEE, CMCT.
Segunda	5. Clasicismo: Beethoven	3	CSC, AA, CEC, CDIG, SIEE.
	6. Romanticismo: Mendelssohn	3	CEC, AA, CL, CMCT, CDIG.
	7. Romanticismo: Wagner	3	SIEE, AA, CEC, CSC.
	8. Romanticismo: Brahms	4	CMCT, CEC, CSC, AA.
Tercera	9. Romanticismo: Bizet	2	CSC, AA, SIEE, CL, CDIG, CMCT, CEC.
	10. Siglo XX: Rimsky-Korsakov	3	CEC, CMCT, CSC, SIEE, AA.
	11. Siglo XX: Carl Orff	3	CEC, AA, SIEE, CSC.
	12. Repaso	3	CEC, AA, CSC.

図2 各学期におけるコンピテンシーの取り扱いの例 (指導計画書第6学年, p.5)



CEC	文化的認識・文化的表現
CSC	社会性・市民性
AA	学び方を学ぶ
SIEE	イニシャチブ感覚と企業家精神
CDIG	デジタル能力
CMCT	数学・科学とテクノロジー
CL	言語コミュニケーション

図3 6学年分のユニットにおけるコンピテンシーの割合

3.2 各学年におけるスタンダードの特徴

各スタンダード項目について、評価を実施する学期が指定されているという特徴がある。例えば、第6学年の「ブロック3. 動きとダンス」のスタンダードは3.1.1～3.1.5の5項目であり、それぞれ何学期に評価を実施するかについて示されている。また、図4にて青色で示されている3.1.2は、「青色スタンダード」と呼ばれる項目で、1学期～3学期の全ての学期において評価に用いられる、スタンダードの中でも重要な位置づけの項目である。各教員が青色スタンダードを指定することになっている。(以上、インタビューによる)

BLOQUE 3: EL MOVIMIENTO Y LA DANZA	
ESTÁNDARES	INSTRUMENTOS Y EVAL.
3.1.1 Identifica el cuerpo como instrumento para la expresión de sentimientos y emociones y como forma de interacción social. (CSC, CEC, AA)	Lista de control. 2ª EVAL.
3.1.2 Controla la postura y la coordinación con la música cuando interpreta danzas. (CEC, AA)	Lista de control. Todas las evaluaciones.
3.1.3 Reconoce danzas de distintas épocas y lugares valorando su aportación al patrimonio artístico y cultural. (CEC)	Lista de control. 3ª EVAL.
3.1.4 Disfruta interpretando danzas tradicionales entendiendo la importancia de su continuidad y el traslado a las generaciones futuras. (CSC, CEC, AA)	Lista de control. 2ª EVAL.
3.1.5 Inventa coreografías que corresponden con la forma interna de una obra musical y conlleva un orden espacial y temporal. (SIEE, CEC, AA)	Lista de control. 3ª EVAL.

図4 例) 6年, 「ブロック3. 動きとダンス」のスタンダードと評価を実施する学期

続いて、6学年分の全てのユニットにおけるスタンダード数を集計したところ、第1学年のスタンダードは21項目であるが、第6学年では33項目となっており、学年が上がるごとにスタンダードの数が増加していることが分かる(表1)。

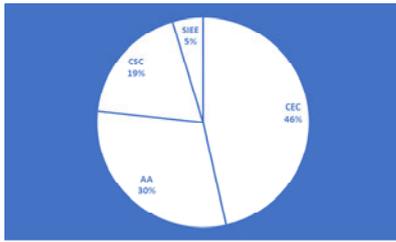
表1 6学年分のユニットにおける「スタンダード」の数

	ブロック1 聴取	ブロック2 演奏	ブロック3 動きとダンス	合計
1年	8	9	4	21
2年	9	10	4	23
3年	11	13	4	28
4年	10	14	4	28
5年	12	12	5	29
6年	13	15	5	33

3.3 「ブロック3. 動きとダンス」のスタンダードとコンピテンシー

「ブロック3. 動きとダンス」においては、第1学年～第4学年では4項目のスタンダード、第5学年～第6学年では5項目のスタンダードが設定されており、各学年に1つずつ青色スタンダードが設定されているという特徴がある。

それぞれのスタンダードについて1～3つのコンピテンシーが関連づけられている。コンピテンシーの数を集計し、その割合についてグラフにまとめた(図5)。その結果、「CEC(文化的認識・文化的表現)」が46%と最も多く、続いて「AA(学び方を学ぶ)」(30%)、その次に「CSC(社会性・市民性)」(19%)であり、「SIEE(イニシャチブ感覚と企業家精神)」も少ないながら設定されている。



CEC	文化的認識・文化的表現
AA	学び方を学ぶ
CSC	社会性・市民性
SIEE	イニシャチブ感覚と企業家精神

図5 「ブロック3. 動きとダンス」の6学年分のユニットにおけるコンピテンシーの割合

3.4 「ブロック3. 動きとダンス」のスタンダードと活動内容

各学年において年間12ユニットの学習が組み立てられており、1つのユニットの中で、3つのブロック内容を組み合わせていることが多い。12ユニットのうち、身体表現活動は7～8ユニット分に設定されており、比較的頻度の高い活動であると言える。以下に、「ブロック3. 動きとダンス」の5つのスタンダードについて、指導計画書におけるそれぞれの学年の具体的な活動を挙げる。

「3.1.1 身体が、感情や情緒、社会との相互作用の形式のための表現媒体であることを認識する」については、全学年におけるユニット7にて、身振りや身体の動きを通じた感情表現を中心として活動している。低学年では「身振りや表情にて、喜び・驚き・恐怖・悲しみ（第1学年）・怒り・退屈について表す（第2学年）」という活動が設定されている。高学年では、「身体表現で感情を表現する」ことに加えて、「社会との相互作用」という視点を取り入れ、「他の児童と踊る際に適した関係をつくる」活動が実施されている。（表2）

表2 スタンダード3.1.1に関する各学年の活動内容

3.1.1 身体が、感情や情緒、社会との相互作用の形式のための表現媒体であることを認識する（CSC,CEC,AA）	
1年	U.7 身振りや表情にて、喜び・驚き・恐怖・悲しみについて表す
2年	U.7 身振りや表情にて、喜び・驚き・恐怖・悲しみ・怒り・退屈について表す
3・4年	U.7 身体表現で感情を表現する
4・6年	U.7 身体表現で感情を表現する。他の児童と踊る際に適した関係をつくる

2つ目のスタンダードは、第1学年にて「3.1.2 教師の指示により、身体の様々な音色を表現する」という項目が設定されているため、ユニット2にて「教師の鳴らす楽器音または音楽を聴きながら、強いー弱い、高音域ー低音域を動きで示す」、ユニット3にて「グループで“Juan Pequeño”を踊る」、ユニット10にて「音楽や教師の鳴らす音を聴いて、身体による音の特徴を表現する」という活動がみられる。第2学年～第4学年ではスタンダードの文言が「3.1.2 ダンスを表現する際に音楽との関連やポーズをコントロールする」のように変化しており、第2学年では「音楽を聴いてダンスや振付をすることにより、身体の動きの状態を適合させる」として、歌に合わせた振付の活動を設定している。第3学年～第6学年では「友達と共にダンスを表現する・振付をする」という活動において、ダンスの表現におけるクラスメイトとの協働場面を想定していると考えられる。（表3）

音楽科身体表現活動のスタンダードに関する考察

表3 スタンダード3.1.2に関する各学年の活動内容

3.1.2 教師の指示により、身体の様々な音色を表現する(AA, CEC)	
1年	U.2 教師の鳴らす楽器音または音楽を聴きながら、強い—弱い、高音域—低音域を動きで示す U.3 グループで“Juan Pequeño”を踊る U.10 音楽や教師の鳴らす音を聴いて、身体による音の特徴を表現する
3.1.2 ダンスを表現する際に音楽との関連やポーズをコントロールする (CEC, AA)	
2年	U.10 音楽を聴いてダンスや振付をすることにより、身体の動きの状態を適合させる（歌“Al pasar la barca”）
3年	U.10 友達と共にダンスを表現する
4年	U.10 友達と共にダンスおよび振付をする（歌“Las mañanitas”）
5年	U.3・7・11 友達と共にダンスおよび振付を実践する
6年	U.3 友達と共にダンスおよび振付を実践する（振付2：クリスマス） U.7 ダンス“ Break Mixer” U.11 振付4

3つ目のスタンダード「3.1.3 音楽や友達と自身の動きを合わせることを実現する」は、1～4 学年では、振付やダンスの活動を実施している。高学年ではスタンダードの文言が「3.1.3 様々な時代や地域のダンスについて知る（第5学年）、様々な時代や地域のダンスについて、芸術および文化の遺産への寄与であることを評価し再認識する（第6学年）」のように変化し、ダンスの多様性に触れつつその価値について再認識するために、これまでに実施したダンスの振り返りを実施している。（表4）

表4 スタンダード3.1.3に関する各学年の活動内容

3.1.3 音楽や友達と自身の動きを合わせることを実現する (CEC,CSC)	
1年	U.7 振付2（歌“El patio de mi casa”） U.11 グループでダンスまたは振付を考案する（歌“El corro la patata”）
2年	U.3 ダンス“La Raspa” 振付1 U.7 振付2（歌“Dónde están las llaves”） U.11 グループでダンスまたは振付を考案する（歌“Tres hojitas madre”）
3年	U.3 振付1（歌 “Esto es Halloween”） U.7・11 友だちと共にダンスおよび振付をする（単元の音楽鑑賞で扱った曲に基づいて考案）
4年	U.11 教室で実施するダンス音楽を聴いて認識する
3.1.3 様々な時代や地域のダンスについて知る (CEC)	
5年	U11. これまでに実践したダンス曲を聴いて認識する
3.1.3 様々な地域や時代のダンスについて、芸術および文化の遺産への寄与であることを評価し再認識する (CEC)	
6年	U11. これまでに実践したダンス曲を聴いて認識する

桐原

4つ目のスタンダード「3.1.4 教室で実施するダンス音楽を聴いて認識する」という項目については、第1学年～第4学年では音楽聴取の活動を取り入れながら、ダンスに必要なカウント練習や振付の活動を実施している。高学年になると、「3.1.4 文化的な伝承の重要性を理解しながら伝統的なダンスを表現する」と文言が変化し、第5学年のユニット5「伝統的なダンスを友達と共に実践し、次世代への文化的な伝承の重要性と価値を認識する」、第6学年のユニット11「ダンスおよび振付の表現を楽しむ」という活動を通して、文化的な伝承の重要性を理解しているかどうか、また伝統的なダンスを表現することが出来ているかどうかについて評価をするものであると考えられる。(表5)

表5 スタンダード3.1.4に関する各学年の活動内容

3.1.4 教室で実施するダンス音楽を聴いて認識する (CEC)	
1年	U.11 音楽聴取やダンスにおけるカウントについて知る
2年	U.11 音楽を聴いてダンスや振付をすることにより、身体の動きの状態を適合させる (歌“Tres hojitas madre”)
3年	U.11 教室で実施するダンス音楽を聴いて認識する
4年	U.3 振付3 友達と共にミニ“Auresku”を表現する U.7 友だちと共にダンスおよび振付をする (歌“Xiao bai tu quai quai”) U.11 友だちと共にダンスおよび振付をする (舞踊“tarantela”)
3.1.4 文化的な伝承の重要性を理解しながら伝統的なダンスを表現する (CEC, CSC, AA)	
5年	U5. 伝統的なダンスを友達と共に実践し、次世代への文化的な伝承の重要性の価値を認識する
6年	U11. ダンスおよび振付の表現を楽しむ

5つ目のスタンダードは、高学年のみに設定されている「3.1.5 音楽作品に対応する振付を考案する」という項目であり、ここで「SIEE (イニシャチブ感覚と企業家精神) というコンピテンシーが登場している。少人数でダンス曲の振付をする際に、イニシャチブ感覚を発揮することが求められていると考えられる。(表6)

表6 スタンダード3.1.5に関する各学年の活動内容

3.1.5 音楽作品に対応する振付を考案する(SIEE, CEC, AA)	
5年	U10. 少人数のグループで振付を考案する (ダンス曲“La Troika”)
6年	U10. 少人数のグループで振付を考案する

4. 総合的考察

本研究においては、スペインの初等音楽科カリキュラムにおける、スタンダードに基づく身体表現活動の特徴について明らかにすることを目的とした。このため、ムルシア州の取り組みを例として取り上げ、公立小学校の音楽指導計画書を分析の対象として検討した。

音楽科身体表現活動のスタンダードに関する考察

スタンダード項目は、音楽科の3つのブロックに沿った内容で構成されているとともに、学年によって文言が変化しており、子供たちの発達段階や学びの系統性を考慮して設定されているという特徴がある。また、「ブロック3. 動きとダンス」には、「感情表現」「相互作用」「表現媒体」「身体の様々な音色の表現」「身体の動きを合わせる」「ダンス音楽の聴取」「振付の考案」などの要素がスタンダードに示されており、音楽科身体表現活動のねらいが明確にされている。音楽科教員はこれらに基づいて、発達段階に合った音楽科身体表現活動を設定していくことが可能となると考えられる。加えて、本事例においては、「ブロック3. 動きとダンス」のスタンダードが、「CSC（社会性・市民性）」「AA（学び方を学ぶ）」「CEC（文化的認識・文化的表現）」「CEIG（デジタル能力）」「SIEE（イニシャチブ感覚と企業家精神）」というコンピテンシー育成に関連づけられており、これらの能力の育成に向けて音楽科身体表現活動を設定していることが導き出された。一般的に、音楽科身体表現活動は、体育科とは別のねらいのもとに授業展開されるが、音楽的な側面のみならず身体の動きを含むため、音楽科としてのねらいの設定が曖昧になってしまうという課題があると考えられる。この点においてスタンダードは、コンピテンシーの育成と関連させて、指導計画と評価の一体化を図るための指針となり得るため、教員が身体表現活動を通して子供たちのどのような学びを実現していくのか、学年ごとに具体的にイメージすることが出来るという利点が考えられる。

上記のようなスタンダード導入の利点は認められるものの、年間12ユニットの音楽科3ブロックの学習において、21～33項目という多くの到達目標を掲げていることには課題があると考えられる。教員は、以前よりも授業中に子ども達を評価すべき場面が増加し、評価業務に追われる日々であるという（インタビューより）。留年制度そのものは1990年から存在していたが、LOMCE法（2013年）にてスタンダードを導入することで、子供たちの学習レベルの底上げを図ろうとしており、ここには、米国におけるNCLB法（2002年）⁵の理念およびその後の教育施策からの影響があると思われる。欧米諸国においては、芸術教育のスタンダードに基づく授業デザインに関する批判的な議論も展開されている（渡辺、2016）ため、今後のスペインにおける動向を確認しながら、初等音楽科および音楽科身体表現活動に対して、スタンダード導入が適切かどうか、授業観察やインタビュー調査における事例の中で検討していく必要がある。また、スタンダードと関連づけられているコンピテンシーについて、例えば、「AA（学び方を学ぶ）」とはどのような内容か、「SIEE（イニシャチブ感覚と企業家精神）」とはどのような場面で育成されるのか、など本研究で明らかにされていない事柄も多い。身体表現活動において育成されるコンピテンシーの具体的な要素についても、今後、授業実践における活動場面の観察や分析を通して明らかにしていきたい。

⁵ 「どの子ども置き去りにしない、No Child Left Behind (NCLB)」法（2002年）は、落ちこぼれや弱者救済を理念としている。その制定の背景については例えば吉良（2009）が報告しており、その後の課題については甲斐（2014）や矢野（2018）などで提示されている。

付 記

本研究の研究協力者である, Martínez Fernández, Marcos Jesús 氏に, この場を借りて謝意を表したい。本研究は, 日本学術振興会科学研究費(課題番号: 17K04761, 20K02880)の支援を受けて行われた。また本研究は, 日本音楽教育学会第48回大会(愛知教育大学, 2017年10月21日)にて発表された内容を大幅に修正したものである。

引 用 文 献

- C.ファデル, M.ピアリック, B.トリリング(著). 岸学(監訳)(2016). *21世紀の学習者と教育の4つの次元—知識, スキル, 人間性, そしてメタ学習—*. 北大路書房.
- Decreto n.º 198/2014, de 5 de septiembre, por el que se establece el currículo de la Educación Primaria en la Comunidad Autónoma de la Región de Murcia (ムルシア州のカリキュラム). *Boletín Oficial de la REGIÓN de MURCIA. Número 206, de 6 de septiembre de 2014*, pp.33054-33556.
- 甲斐進一(2014). 米国のNCLBを巡る近年の諸評価. *椋山女学園大学教育学部教育学部紀要(7)*, pp.79-90.
- 吉良直(2009). どの子も置き去りにしない「NCLB」法に関する研究: 米国連邦教育法の制定背景と特殊性に着目して. *教育総合研究. 日本教育大学院大学紀要(2)*, pp.55-71.
- 桐原礼(2020). 身体表現活動を通して育まれる「社会性・市民性」および「文化的認識・文化的表現」のコンピテンシーについて—スペインの初等音楽科授業デザインの検討を通して—. *信州大学教育学部研究論集(14)*, pp.104-113.
- Ley Orgánica 8/2013, de 9 de diciembre, para la mejora de la calidad educativa. (LOMCE 法) *BOE. núm. 295, de 10 de diciembre de 2013*, p.97920.
- Martínez, M.J. (2016). *Programación Docente Música Primer curso. 2016-2017. CEIP Fátima.*
- Martínez, M.J. (2016). *Programación Docente Música Segundo curso. 2016-2017. CEIP Fátima.*
- Martínez, M.J. (2016). *Programación Docente Música Tercer curso. 2016-2017. CEIP Fátima.*
- Martínez, M.J. (2016). *Programación Docente Música Cuarto curso. 2016-2017. CEIP Fátima.*
- Martínez, M.J. (2016). *Programación Docente Música Quinto curso. 2016-2017. CEIP Fátima.*
- Martínez, M.J. (2016). *Programación Docente Música Sexto curso. 2016-2017. CEIP Fátima.*
- 松尾知明(2014). *教育課程・方法論—コンピテンシーを育てる授業デザイン*. 学文社.
- Real Decreto 126/2014, de 28 de febrero, por el que se establece el currículo básico de la Educación Primaria. (LOMCE 法下の国レベルのカリキュラム) *BOE. núm. 52, de 1 de marzo de 2014*, pp.19349-19420.
- 渡辺貴裕(2016). 英語圏における芸術教育の評価の新展開. 田中耕治(編著). *グローバル化時代の教育評価改革—日本・アジア・欧米を結ぶ—*. 日本標準, pp.196-207.
- WIP ジャパン株式会社(2014). 平成25年度文部科学省委託調査「教育改革の総合的推進に関する調査研究—諸外国における学制に関する改革の状況調査」報告書.
- 矢野裕俊(2018). NCLB法以後の米国における州スタンダードとアセスメントをめぐる推移とその問題点. *アメリカ教育研究(28)*, pp.19-28.

(2022年11月30日 受付)
(2023年 2月28日 受理)